

荻田町青少年育成町民会議だより



すたが

編集・発行／荻田町青少年育成町民会議総務部会
(☎434-1111 内線390)

協力／荻田町企画課広報広聴係

No.16. 1995年(平成7年)3月25日



がんばりましょう！町民会議



松下さんが優秀賞

社明作文全国コンテスト

社会を明るくする運動の一環として実施された社明作文コンテストで、荻田中3年の松下智子さんが、全国からの応募総数12,653点の中から、優秀賞（全国保護婦人連盟会長賞）を受賞しました。以下、受賞作品をご紹介します。



人間として

松下 智子

（荻田中学校3年）

人間の強さ、それを見つけようとした時、同時に人間の弱さも見えてくる。シンナー、覚せい剤そして非行、これらは人間の弱さをかくすためのいわば道具にしかすぎない。弱い部分をさらけだしても自分をかくしてしまわない人間、その人達の生き方はすばらしく輝いている。そしてその人達こそ本当に強い人間なのではないのだろうか。

私が中学二年生の時、母が、「今日、電話をかけようとしたらね、全然知らん若い男の子が話しかけてきたんよ、その子は昔シンナー吸ったみたいでね、中毒になったんやろうね、脳の方にまで障害がきてしまったってんだよ。」と言った。私は、勝手に自分がシンナーを吸ってそんな風になってしまったその人が悪いと思う、何も考えずにそれを、そのまま口に出した。

「自分が勝手にシンナー吸ってそんなになったんやけ自業自得よ。」

母は人様に迷惑をかけることや、誤った行為をする事をもの

すごく嫌う人だから「そうよね」というと思った。が、違った。母はすごく哀しい顔をしてこう言った。

「そんなこと言うもんやないよ、その人が何故そうしたのかということも分からんのに、人のことを非難するもんやないよ。」私はビクッとした。たしかに母の言う通りかもしれない。私はその男の人が何故シンナーを吸ってしまったのか、その人をそこまで追い込んでしまった原因が何かさえ知らない。それなのに、私にその人のことを非難する権利があるだろうか。あるわけがないのである。苦しく辛い思いをしてきたのかも知れない。生きる意味さえも見失ったのかも知れない。耐えられなくなり、シンナーに手を出してしまっただのかもしれないのだ。何も考えずに「自業自得だ」とその人のことを悪く言うような私なんかには、その人を非難する権利はないのである。

私の友人が今年になって急に生活態度が変わった。靴を踏み

つけてはき「髪の毛染めてみた」等と言いだした。私と母は、一生懸命にその子に、どうにかもとの明るいう子にもどってもらおうと思ひ、三人で散々話し合った。結局その子は、髪も染めず今でも私の友達でいる。その友人が少し前に私に言った言葉があった。

「私、智ちゃんが友達でよかった。友達でおってくれてありがとう。」

それを聞いた時には、その言葉にどういう意味がふくまれていたのか分からなかった。しかし、今になって考えてみると、あれは友人が私にあってサインだったのかも知れない。友人が私に送った助けてのサインだったのかもしれないのだ。後で聞いた話によると、やはり友人は自分の友達関係で悩んでいたということだった。私はもう少し早くあの助けてのサインに気付いてあげればよかった。そして悩みを聞いてあげればよかったと心から後悔した。

非行に走るということは何かから逃げ出すという行為ではなく、前に進めずに立ち止まるという行為だと思う。立ち止まっているうちに自分が前に進めないということが不安になり、シンナーなどに手を出すのだと思う。

前に進めず立ち止まっているその子の弱さばかりを責めるのではなく、それよりもっとそ

の時その子に対して周囲の人間の態度がどうであったかということ、第一に考える必要があるのではないだろうか。立ち止まっているその子に対して「ともに行こう」と手をさしのべ、歩幅をあわせて歩んで来たのか。そんなことが最も大切なのだということを考えなければならぬのだ。そうした時に第一に考えなければならぬことが、今自分はどうであるかということである。今、周りの人間に対して自分の態度がどうであるか、優しい気持ちで接しているかどうか、自分の身の周りに心の病んだ者がいないのかなど、様々なことに気を遣って生きていかねばならない。そしてそんな温かい思いやりの中で自分が生かされているんだということも忘れてはならないのだ。

非行防止・シンナー防止を唱える前にまず、その原因となる身近な人間の小さな変化、助けてのサインそれを見逃さないことが先決である。少しでも心の病んだ人間をつくりあげてしまわないため、他人に対する思いやりの気持ちを忘れてはならないのだ。そういう小さな心遣いが、これから先の未来を大きく変えることになりうるんだと思う。優しい気持ちで相手と思う。強い心で相手を守る。これからの未来のために、今を生きる人間として――。

非行のピークは15歳

京都・行橋地区の青少年非行概況

このほど、行橋警察署より平成6年の青少年の非行に関する概況が発表されました。それによると、不良行為少年が昨年に比べ急増しています。また、中学生の非行が全体の約半数を占め、年齢では15歳がピークです。

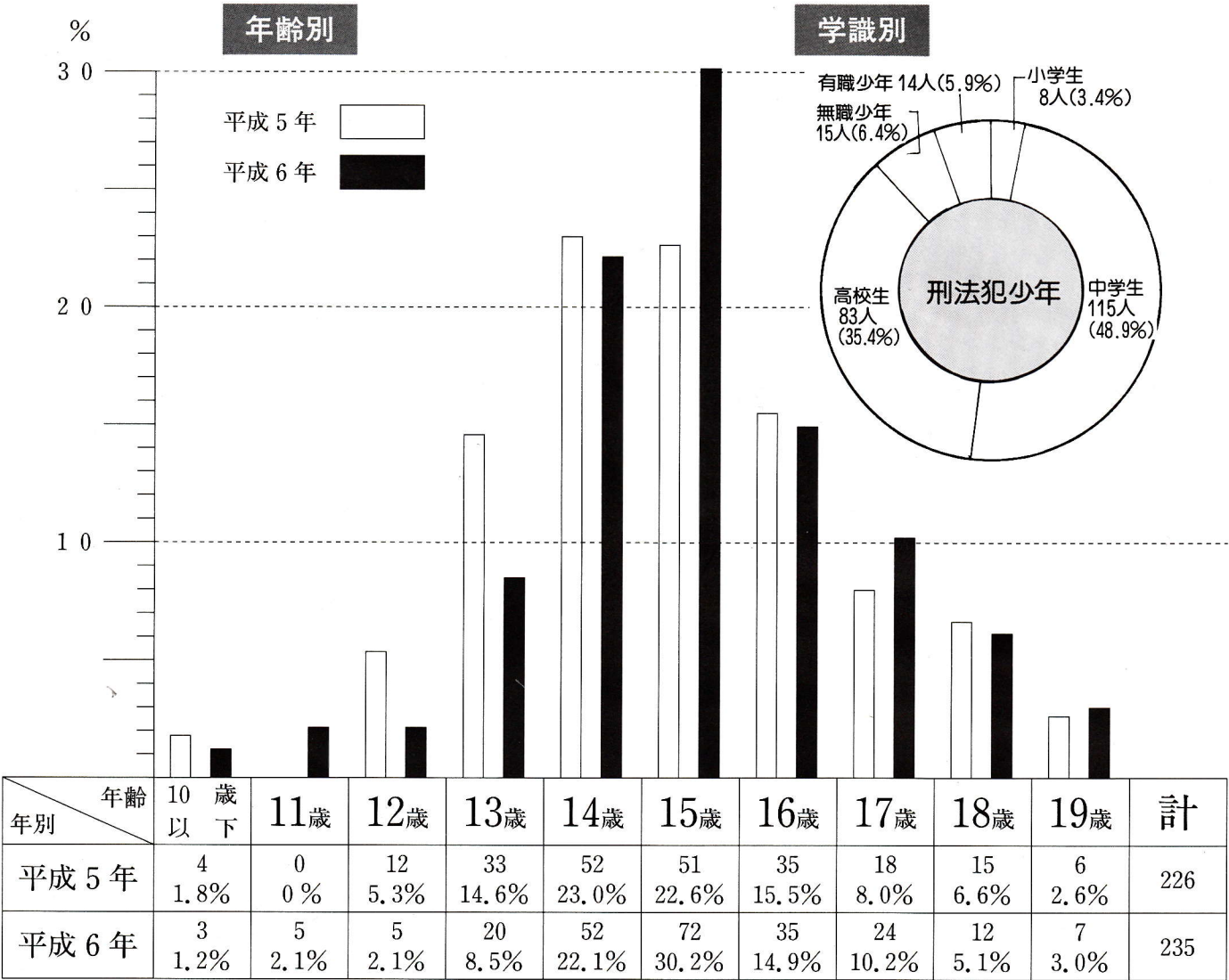
(単位：人)

区分 年別	非 行 少 年			不良行為少年	計
	刑 法 犯	特別法犯	ぐ 犯		
平成4年	216 (24)	45 (14)	1 (0)	902 (159)	1164 (197)
平成5年	226 (37)	48 (21)	3 (1)	758 (109)	1035 (168)
平成6年	235 (42)	18 (5)	0 (0)	1130 (205)	1383 (252)

※()内は女子を内数で示す。

不良行為の内訳

行為 年別	喫煙	深夜徘徊	怠学	不良交友	暴走行為	薬物乱用	不健全娯楽	飲酒	その他	計
平成4年	430	295	30	16	29	73	7	15	7	902
平成5年	356	246	47	29	16	41	5	9	9	758
平成6年	515	397	58	38	24	39	8	32	19	1130



青少年相談

Q&A

Q

学校における「いじめ」が大きな社会問題となっていますが、「いじめ」の状況はどのようなものなのでしょうか。また、「いじめ」をなくすために家庭ではどんなことに気をつけたらよいのでしょうか。

A

① いじめの状況について

文部省では、平成5年度の公立小・中・高等学校における「いじめ」の状況について、平成6年12月に調査の結果を発表しました。それによりますと、

● いじめの発生は、小学校においては約11%、

中学校においては約32%、高等学校においては約24%の学校で

みられました。

● いじめの発生件数、発生件数については、前年度と比べ、小・中学校が減少し、高等学校では増加しています。

● 全小・中・高等学校を通じた1校当たりの発生件数は、0・

6件となっています。

● いじめの発生件数を学年別にみると、小学校から学年が進むにつれて多くなり、中学1年生で最も多くなっています。その後は、学年が進むにつれて減少しています。

● 男女別の比較では、小学校では男女の差はあまりありません

● 子どもが必要ときには、すぐに親や教師に相談することができるよう、子どもと親や教師との信頼関係を深めること。

● いじめ問題の重さ、家庭での教育の重要性を再確認し、保護者に、子どもの生活態度の変化に注意するように求めています。

なお、荊田町青少年育成町民会議補導環境部会では、去る2月16日、

「いじめ」の問題について話し合いました

が、愛知県の中学2年生が『いじめ』を苦に自らの命を絶つたことについて、「この教訓を自分の問題、身近な問題としてとらえ、家庭教育のあり方を、それぞれの家庭で考え直し、『いじめ』をなくすよう努力すること」をちかいました。

「いじめ」について

が、中・高等学校となるにつれて男子の占める割合が高くなっています。

● 家庭で気をつけること
平成6年12月9日、文部省の「いじめ対策緊急会議」が緊急アピールを発表しました。その中で次のように述べています。

が、中・高等学校となるにつれて男子の占める割合が高くなっています。

が、中・高等学校となるにつれて男子の占める割合が高くなっています。

紙谷さんが県知事賞

荊田町から23人が入賞

健全育成ポスターコンクール

福岡県子ども会連合会主催による健全育成ポスターコンクールに、町内の各小中学校を通じて募集したところ、多数の応募がありました。

県の選考の結果、荊田町より次の23人の方が入賞しました。(敬称略)

★福岡県知事賞

紙谷 寛美(新津中1年)

★福岡県教育委員会賞

神 幸希(与原小3年)

★銀賞

平元 文由(新津中3年)

平元 明美(新津中1年)

★銅賞

前田 恵美(新津中1年)

野口 智史(新津中3年)

原岡 愛美(南原小5年)

★佳作

田中 信介(新津中3年)

川端 鮎子(新津中2年)

松蔭 美保(新津中2年)

徳永 信之(新津中1年)

岩岡 陽子(荊田中3年)

西川 正芳(新津中1年)

三溝 幸希(荊田中2年)

市来 良子(新津中3年)

江川 雅子(新津中2年)

花田 由薫(新津中2年)

村上 史浩(新津中2年)

田上 美和(新津中2年)

中村 真紀(荊田中2年)

毛利 博美(新津中2年)

都留あけみ(新津中3年)

山本 美恵(新津中3年)

※以上の方は、3月29日に県立社会教育センターで表彰されます。

自転車反射板を配布

町民会議では、自転車の夜間走行の際の危険防止のため、自転車に取り付ける反射板を製作しました。中央公民館、小波瀬コミュニティセンター、北公民館、西部公民館の窓口においてありますので、ご自由にお取りください。(数に限りがありますので、なくなった場合はご容赦ください)

第3日曜日は「家庭の日」

悩んでいないで気軽にダイヤル

436-11152

青少年教育相談室

(三原文化会館内)

教育委員会では、青少年の健全な育成をと「青少年教育相談室」を開設しています。ご利用ください。

勉強や進路、友達、家庭や親子関係、子どもの変化、しつけなどの問題解決への手助けのために、まずは気軽にダイヤルしてください。秘密は固く守ります。

● 相談日時 毎週月・水・木・金曜 午前9時～午後4時30分
※相談は電話相談、面接相談のどちらでも受け付けます。
※祝祭日は除きます。